

# 令和元年度 上河内西小学校 学校評価書

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

<b>自立（ひとりで）</b> ・ 自ら進んで学べる子 ・ 自ら考え解決できる子 ・ 自信をもって行動できる子	<b>共生（なかよく）</b> ・ 人とつながり共に生きる ・ 喜びを感じる子 ・ 思いやりがある子 ・ みんなのために働く子	<b>逞しさ（たくましく）</b> ・ 進んで運動し、活力のある子 ・ 最後まで粘り強く取り組む子 ・ 偏食をせず、健康な体をつくる子
--	---	--

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校は子供たちの学びを保障し、成長を促すところである。子供たちが、授業の中で、「わかった」「できた」と達成感が味わえる学習が行われ、「もっと学びたい・できるようになりたい」と主体的に学ぶ意欲が高まる学びのある学校づくりを目指す。また、子供たちの育成には学校が家庭や地域と連携・協力し一体となって取り組んでいくことが肝要であるため、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」を推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校経営の中核に心豊かな子供の育成を位置付け、活気に満ちた学校を築く。
- (2) 確かな学力の定着・向上を目指し、基礎・基本の確実な習得を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。
- (3) 自らの目標に粘り強く挑戦する心と健やかな体を育む教育活動の充実を図る。
- (4) 「小中一貫教育と上河内地域学校園」及び地域協議会の充実に努め、家庭や地域社会の信頼に応える「地域とともにある学校づくり」を推進する。
- (5) 教育公務員としての使命を自覚し、和と協働の精神を大切にして、専門職としての力量形成に努める。
- (6) 職務の遂行に際しては、チーム対応に努め、勤務時間を意識した働き方を心掛ける。

[上河内地域学校園教育ビジョン]

たくましいゆずっ子の育成  
 ～基本を身に付け、人とつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう～

## 4 教育課程編成の方針

- (1) 編成にあたっては、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則及び小学校学習指導要領等の法令、並びに栃木県教育委員会の方針、宇都宮市教育委員会の「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」「平成31年度指導の重点」の示すところに従い、公教育の立場を堅持した教育課程を編成する。  
 なお、小学校学習指導要領については、小学校学習指導要領第1章第1の教育課程編成の一般方針、第3の授業時数等の取扱い及び第4の指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項の規定を踏まえ、その趣旨の実現を図るものとする。併せて、2020年度から完全実施となる新学習指導要領へのより円滑な移行も視野に入れながら、教育課程を編成する。
- (2) 学校教育目標・学校経営計画を理解し、学校の実態（施設・設備・教職員の組織等）、地域社会や児童の実態、保護者や教職員の願いや期待を考慮した上で、豊かな人間性と創造性を身に付けた児童の育成を目指した編成をする。
- (3) 各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動におけるそれぞれの目標や特質、指導内容の趣旨を踏まえ、適切な工夫や見直しを加えながら、本市の小中一貫教育カリキュラムに示された年間授業時数を確保できるような編成をする。
- (4) 児童に生きる力を育むことを目指し、学校の創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開できるような編成をする。
- (5) より確かな児童理解に基づいて、「楽しく分かる授業」「個に応じた指導」を展開し、基礎・基本の確実な定着を図るような編成をすること。
- (6) 道徳教育の理念を尊重し、全教育活動を通して、未来を拓く主体性のある日本人としての道徳性の基盤を養うことのできるような編成をする。
- (7) 年間授業時数は、35週（1年生は34週）以上にわたって行うよう編成し、週当たりの授業時数が、児童の負担過重にならないよう工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>【 学 校 運 営 】</p> <p>「学びがあり、仲間がいて楽しい学校、子供を学ばせてよかったと思える学校づくり」に努め、和と協働の精神を大切にした教職員集団の確立と、家庭や地域社会の信頼に応える「地域とともにある学校づくり」の実現とを目指す。</p> <p>【 学 習 指 導 】</p> <p>○学業指導の徹底を通じた学びに向かう集団の形成</p> <p>○基礎学力の向上と家庭学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話的で深い学びの実現を目指した言語活動の充実と図書館教育の継続</li> </ul> <p>【 児 童 生 徒 指 導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな児童理解に基づいた多様な児童の状況に応じた指導の充実</li> </ul> <p>○基本的な生活習慣を身に付け、ルールを守って行動する児童の育成（あいさつ・適切な言葉使い）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級経営や特別活動を基盤としたお互いのよさを認め合うことのできる児童の育成</li> </ul> <p>【健康（体力・保健・食・安全）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事等を通じた体と心のたくましさの涵養</li> </ul> <p>○準備運動の工夫を通じた体力（投力・持久力）の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関する指導の充実（望ましい食習慣と食事マナーの啓発）</li> <li>・熱中症予防や危険回避能力の育成など健康・安全指導の充実</li> </ul>
--

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合80%以上 <b>児童 90.3%教職員 78.9%</b></p>	<p>①発表や話し合いの仕方についてブロックごとに型を示し、「自分の考え」を伝える活動の充実を図る。</p> <p>②自分の学習を振り返ることができるようなノートの使い方について、きめ細かな指導を行う。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の肯定割合は高い値であるが、教職員は若干指標を下回った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、児童が考える時間を大切にし、主体的に取り組める授業づくりに努める。</li> <li>・学びの質を高めるために、めあての立て方、ノートの取り方、振り返りの仕方などについての研究を進めていく。</li> </ul>
	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合80%以上 <b>児童 81.6%教職員 78.9%</b> <b>保護者 85.1% 地域 100%</b></p>	<p>①道徳科を中心に自分の気持ちを客観的に捉える活動を基底として、他者の気持ちを想像したり考えたりする機会を充実させる。</p> <p>②縦割り班活動や異学年交流活動を充実させ、相手の気持ちを考えて行動できるよう指導する。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定割合が指標を若干下回った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科の授業を生かし、自分と異なる意見についてももしっかり考えさせ、他者を認める、賛同する雰囲気づくりを継続する。</li> <li>・「ふわふわ言葉」の推奨を継続する。</li> </ul>
	<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合80%以上 <b>児童 79.6%教職員 89.5%</b></p>	<p>①「上西小徹底したい『5つのあたり前』」のうち、重点的に指導する際は強化週間を設けるなど、教職員と児童が意識的に取り組めるような工夫をする。</p> <p>②上西スマイル賞表彰など、きまりやマナーを守っている児童を称賛する場を設け、実践意欲を喚起する。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、教職員の肯定割合はほぼ指標の値に達している。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「5つのあたり前」の指導を教職員のみならず児童会（代表委員会）の活動にも取り入れ、児童の意識を高めたい。</li> <li>・上西スマイル賞の表彰規準に「あたり前」の内容を含めることを検討する。</li> </ul>

<p>A 4 児童は、時と場に合ったあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上 <b>児童 89.2%教職員 78.9% 保護者 78.9%地域 83.3%</b></p>	<p>①地域学校園での「あいさつ運動」を活かしながら、日常的なあいさつを奨励する。</p> <p>②家庭・地域と連携・協力を図りながら継続的に指導することで意識づけを図る。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員、保護者の肯定割合が指標を若干下回ったが、昨年度に比べ微増している。</p> <p>【次年度の方針】 ・日常的なあいさつや(廊下での)会釈など、あいさつに方法について随時指導しながら、模範的な児童を賞賛し、意識化を図る。 ・地域学校園における「あいさつ運動」を継続するとともに、学校園地域協議会の標語も活用しながら、あいさつ励行の気運を高めていく。</p>
<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上 <b>児童 88.3%教職員 78.9%</b></p>	<p>①学習や行事等で事前に目標を設定する場を設け、適宜振り返りを行い、自己目標に主体的に取り組んだり、努力したりする児童を称賛する。</p> <p>②目標に向かって取り組む姿勢を児童相互が認め合い、励まし合えるよう指導する。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定割合が指標を若干下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童が取り組んだ結果だけでなく、その過程を認め、称賛する、また、その様子を家庭にも周知して、認めてもらうように努める。 ・学習や行事等で取組について教職員が認め、児童同士が相互評価できる場を意図的に設ける工夫を続ける。</p>
<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上 <b>児童 84.5%教職員 100%</b></p>	<p>①体育や特別活動において健康に関する授業をとおして、日常の健康管理に興味を持たせ、健康的な生活が送れるような態度を育てる。</p> <p>②食の大切さについて学級指導を行ったり、栄養士や養護教諭が参画する授業を工夫したりし、栄養バランスを考えた食事についての意識を高める。</p> <p>③児童の実態とねらいを明確にした交通安全教室、避難訓練を計画的に実施して、安全な生活を送るための基礎的知識・技能及び考える力を育成する。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員、児童の肯定割合は 80%以上で指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、休み時間における外遊びを推奨し、健康体力の増進を図る。 ・給食の残食が少ない傾向にある。栄養士や養護教諭が機会を捉え、野菜摂取を含むバランスよい食事の指導を継続する。 ・交通安全教室、避難訓練等をとおして、校内外における安全意識の向上を図る。</p>
<p>A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 80%以上 <b>児童 88.3%保護者 84.7% 教職員 78.9%</b></p>	<p>①宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自分の良さや個性を大切にし、集団の中で自分の役割を自覚し行動する意欲や態度を育てる。</p> <p>②校内での清掃活動やみどりの日の活動をはじめ校外でのボランティア活動や奉仕活動等で活躍している児童を励まし、賞賛する。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定割合が若干下回ったが、児童は 90%に近い値になった。</p> <p>【次年度の方針】 ・次年度から活用するキャリアパスポートを使い、学んだり取り組んだりした成果を児童の発達段階に合わせたポートフォリオ形式に累積していく。 ・日常的に行う清掃については、5、6年生の役割を再認識させ、班長会議などを活用して取り組みへの意識を高める。</p>
<p>A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上 <b>児童 79.6%教職員 78.9%</b></p>	<p>①外国語活動(英語活動)や異文化に触れる活動を工夫することにより、児童が英語を話す場面を意図的に設定し、自己表現できるよう指導する。</p> <p>②教材教具を充実させるとともに、校内研修を活性化させ、教員が互いに授業改善に努め、指導力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員、児童ともに肯定割合が指標を若干下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童が進んでコミュニケーションがとれるよう、ALTをはじめ外国籍の人と会話する基本形(例)を作成し、活用を促す。 ・修学旅行や校外学習(日光)へ行った際に、話しかける活動を意図的に設けるなど、コミュニケーション力を伸ばす工夫をする。</p>

<p>A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 80%以上 <b>児童 81.6%保護者 60.6% 教職員 52.6%</b></p>	<p>①各学年の各教科、領域等で市内や地域の自然や文化、歴史に関する学習を継続及び開発し、自ら住んでいる地元地域や宇都宮の良さに気付く指導を工夫する。</p> <p>②地域や宇都宮市の行事、イベント等の情報を提供し、参加することを促す。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員、保護者の肯定割合が低い傾向にある。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、身近な教育資源を学習に取り入れながら、次年度から全市一斉に始まる宇都宮学（3年生以上）においても教材開発に努め、宇都宮の良さに触れる機会を増やしたい。</p>
<p>A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 80%以上 <b>児童 84.5%保護者 78.1% 教職員 100%</b></p>	<p>①児童が各教科や領域等の授業や行事等で活動内容や目的に応じてICT機器の適切な使い方を学び、効果的に活用できるよう指導する。</p> <p>②授業内容や児童の興味関心、教職員の要望等を考慮して、適正な学校図書館蔵書及び環境整備に努める。</p> <p>③学級ごとに図書の貸し出し時間を充分確保するとともに学校長表彰等によりチャレンジ読書を奨励する。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定割合が高いが、保護者の値が指標を若干下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、ICT機器を使う場面を意図的に設け、有効に活用する力を育成する。 ・チャレンジ読書を一層推進するとともに、市図書館とも連携を図りながら学習に必要な図書を適宜提供して、環境を整備する。 ・ICTを活用した学習について、保護者等へ発信する機会を増やし、理解を求める。</p>
<p>A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 80%以上 <b>児童 81.6%保護者 85.1% 教職員 78.9%</b></p>	<p>①生活科や総合的な学習の時間、行事等において、地域の方や高齢者と触れ合う時間を意図的に設けるとともに、活動を振り返る時間において感謝する心情を育てる。</p> <p>②道徳科の授業において、生命や人権を尊重する心や相手を思いやる心などを醸成する。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定割合が若干下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・本地区の獅子舞をはじめ身近な地域の伝統文化、自然、人的な資源を学習に取り入れた授業づくりを工夫する。 ・道徳科の授業でも幅広い人材を取り上げたり関わったりする機会を設定し、内容の充実を図る。 ・児童会主催の「感謝の会」を継続して、地域の方に支えられていることを再認識させ、感謝する気持ちを育てたい。</p>
<p>A 12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上 <b>児童 81.4%教職員 42.1%</b></p>	<p>①社会科、理科、生活科、総合的な学習の時間などを軸に環境学習に取り組み、身近な地域の課題に関心を高められるよう指導する。</p> <p>②身の周りの自然現象や環境について学習することをとおして、地域を愛する心情を育て、実行する態度を育成する。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定割合は指標に達しているが、教職員の値は低い。</p> <p>【次年度の方針】 ・環境、食、人権、平和など、「持続可能な社会」に係る内容を各教科の授業とどう関連させるかを意識しながら指導する。 ・ごみの分別など、常時取り組める活動を継続する。</p>
<p>A 13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 85%以上 <b>教職員 94.7%</b></p>	<p>①児童指導主任や特別支援教育コーディネーターが情報を集約し、全教職員が児童に関する情報交換の場を設け、支援や配慮が要する児童に関する共通理解を図り、組織的に対応する。</p> <p>②特別な支援を要する児童の実態や状況に応じて、スクールカウンセラーや関係諸機関と連携を図るなど、チーム学校として機能を生かし、支援及び指導法を充実させる。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定割合が約95%に達し、指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・定期的な会議をはじめ、休み時間や放課後等においても情報交換を密に図ることを継続し、指導体制の強化に努める。 ・これまでと同様に必要に応じて専門家や関係機関と連携を図り、適切かつ組織的な指導ができるようにする。</p>

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 85%以上 <b>児童 94.2%保護者 69.7% 教職員 100%</b></p>	<p>①「いじめゼロ強調月間」に児童会主催の「えがおいっぱい集会」を行うとともに、いじめゼロポスターの掲示・道徳の時間の充実等により、いじめをしない・させない・許さない気持ちを育てる。</p> <p>②定期的な教育相談やいじめアンケート等により、全職員で未然防止・早期発見・早期対応に努める。</p> <p>③学校の取り組みについて、保護者へ積極的な情報発信を行う。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員及び児童の肯定割合は比較的高いが、保護者の値は指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、定期的な調査や相談機会だけでなく、児童の日常的な言動を観察し、組織的な対応で早期解決と丁寧な対応に努める。 ・児童会主催のいじめゼロを意図した集会活動、日常的な学級における取組等を工夫、継続し、活動内容を保護者に学校、学年便り等で伝えていく。</p>
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 85%以上 <b>児童 93.2%保護者 90.4% 教職員 100%</b></p>	<p>①児童の自己有用感や自己肯定感を高められる場になるよう、日々の授業や諸活動で児童が活躍する場面を実現し、相互に認め励ますことができるよう指導する。</p> <p>②日々の観察をはじめ、教育相談週間による調査や相談結果、Q U調査等を活用して、不登校の未然防止に努めるとともに児童の変化に対して迅速かつ組織的に対応する。</p>	<p>【達成状況】 ・各対象者の肯定割合が90%以上なり、指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童が共に生活することで居がいとやりがいを感じられる学習と生活環境づくりを継続する。 ・児童とのコミュニケーションから課題発見に努め、教職員と関係者が連携を図りながら対応する。</p>
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 85%以上 <b>教職員 94.7%</b></p>	<p>①児童指導主任や特別支援教育コーディネーターが情報を集約し、全教職員が外国人児童に関する情報交換の場を設け、支援や配慮が要することの共通理解を図り、組織的に対応する。【A13①再掲】</p> <p>②必要に応じて関係機関と連携を図り、支援の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定割合が90%以上となり、指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・多様な文化や伝統、考え方を受容し、相手理解に努め、柔軟な対応に心掛ける。 ・教職員が情報交換を密にし、適切かつ組織的な対応に努める。</p>
	<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上 <b>児童 83.5%保護者 93.2% 教職員 100% 地域 100%</b></p>	<p>①確かな児童理解に基づく積極的な児童理解を進めるとともに信頼に基づく人間関係を築く。</p> <p>②異年齢集団活動（なかよしタイム、縦割り班清掃、交流給食など）をさらに工夫充実させ、豊かな人間関係を育てる。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員、保護者、地域の肯定割合は指標を上回ったが、児童の値が若干下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・本年度の取組を継続し、学校規模が小さいことを利点にした人間関係づくりや活動内容を工夫する。</p>
	<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 85%以上 <b>児童 92.2%保護者 91.5% 教職員 100%</b></p>	<p>①「朝イチタイム」や「パワーアップタイム」等の有効活用を図る。「パワーアップタイム」は実施曜日を固定し、内容を見直す。</p> <p>②T・T、少人数指導の指導体制を工夫し、「個に応じた指導」の充実を図る。</p> <p>③授業では、めあての提示とふり返りを実施し、学習へ主体的に取り組む態度を育てる。</p> <p>④宮っ子ステップアップシートを活用する。</p>	<p>【達成状況】 ・各対象者の肯定割合が90%以上で比較的高い値となった。</p> <p>【次年度の方針】 ・朝の時間帯においてプリントを活用した国語、算数の復習及び当該学年の基礎的な学習内容の習熟を図ることを継続する。 ・一単位時間における各教科に応じた授業プロセスに基づき、教員が効果的な指導ができるよう研修と研鑽に努める。</p>

<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 80%以上 <b>教職員 89.5%</b></p>	<p>①教員が養護教諭、かがやきルーム指導員、図書館司書業務嘱託員、学校栄養士業務嘱託員、スクールカウンセラー等と情報を共有しながら教育活動の充実を図る。</p> <p>②関係者が協力して取り組めるよう管理職のマネジメント力の向上を図り、学校の組織力を強化する。</p>	B	<p>【達成状況】 ・肯定割合が90%近くに達し、指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・教職員が相互にコミュニケーションを図ることを継続するとともに、関係者とも連携を密にした意見交換ができる場と雰囲気づくりに管理職が努める。</p>
<p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 80%以上 <b>教職員 73.7%</b></p>	<p>①各自が勤務時間を意識し、長時間労働を削減するために、効率的かつ計画的な業務遂行に努める。</p> <p>②学校における働き方改革を推進するため、業務の精選・見直しなどを行う。</p> <p>③教職員相互に業務支援を行い、連携しながら課題解決に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 ・肯定割合が指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・会議の短縮策や開催回数の削減に努める。 ・リフレッシュデーの推進など、ライフワークバランスを考慮した勤務意識の改善を図る。 ・業務改善に関する意見を随時聴取し、検討する。</p>
<p>A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上 <b>児童 90.6%保護者 85.7% 教職員 89.5%地域 80.0%</b></p>	<p>①小中合同のあいさつ運動を行うことで小中学生の交流を図る。</p> <p>②6年生を対象とした中学校訪問を行うことで中学校の様子について学ばせるとともに小中学生の交流を図る。</p> <p>③地域学校園内の教職員で、様々な部会を組織し、意見交換をする場を設ける。</p>	B	<p>【達成状況】 ・各評価対象の肯定割合が指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、地域学校園での協力・連携を図り、学習指導及び児童生徒指導面において効果的な取組を具現化していく。 ・取組内容について適宜、各種便りなどで情報提供していく。</p>
<p>A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上 <b>児童 90.3%保護者 94.2% 教職員 100% 地域 83.3</b></p>	<p>①授業や学校行事等において、積極的に学校支援ボランティアや地域協議会の活用を図る。</p> <p>②ボランティアの適時募集と充実、PTA常置委員会との連携により、教育活動や学習環境の充実を図る。</p> <p>③「魅力ある学校づくり地域協議会」において、学校・家庭・地域の連携を深める事業を推進しながら交流の輪を広げる。</p>	B	<p>【達成状況】 ・各評価対象の肯定割合が指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・継続して地域協議会活動について保護者理解を深め行事への積極的参加を促していく。 ・学習支援ボランティアの有効活用について工夫する。</p>
<p>A 23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上 <b>児童 90.3%保護者 94.2% 教職員 100% 地域 83.3%</b></p>	<p>①授業や学校行事等において、積極的に学校支援ボランティアや地域協議会の活用を図る。【A22①再掲】</p> <p>②ボランティアの適時募集と充実、PTA常置委員会との連携により、教育活動や学習環境の充実を図る。【A22②再掲】</p> <p>③授業や行事等の内容を吟味して積極的に出前講座を活用し、教育活動の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 ・各評価対象の肯定割合が指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・上記A22と同様</p>

	<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上 <b>保護者 90.4%教職員 100% 地域 90.4%</b></p>	<p>①普段から校舎内外の巡視をするとともに、月1回施設設備の安全点検を実施し、必要な箇所の修繕に迅速に取り組む。</p> <p>②火災、地震、竜巻、不審者侵入等避難訓練及び引き渡し訓練等をおして、緊急時における対応を確認するとともに、危機管理マニュアルの見直しと整備を適宜行う。</p> <p>③教職員及び保護者を対象にした心肺蘇生法講習を実施し、AEDの操作や救命法についての訓練を行うとともに、保護者と地域に向けてAED設置と活用についての通知を配付する。</p>	<p>【達成状況】 ・各対象者の肯定割合が指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、施設・設備、器具・用具等の定期的な安全点検を実施し、維持管理に努め、修繕が必要な点については、市教委と連携を図りながら早期改善に努める。</p> <p>・各種訓練を継続し、災害等発生時の対応についての意識化を強化する。</p> <p>・行事や内容によってはPTAの協力を得ながら安全確保に努める。</p>
	<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上 <b>保護者 78.1%教職員 100%</b></p>	<p>①児童が各教科や領域等の授業や行事等で活動内容や目的に応じてICT機器の適切な使い方を学び、効果的に活用できるよう指導する。【A10①再掲】</p> <p>②授業内容や児童の興味関心、教職員の要望等を考慮して、適正な学校図書館蔵書及び環境整備に努める。【A10②再掲】</p> <p>③学級ごとに図書の貸し出し時間を充分確保するとともにチャレンジ読書を励行する。【A10③再掲】</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定割合が高いが、保護者の値が指標を若干下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・必要な機器については予算確保に努め、整備を進める。</p> <p>・他、A10と同様</p>
	<p>B1 学校は、保護者と協力して教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員・保護者肯定割合 80%以上 <b>保護者 85.3%教職員 94.7%</b></p>	<p>①保護者の思いを共感的に受け止め、日常的に連携を図る。</p> <p>②両者が協力して取り組めるよう配慮と工夫をする。</p> <p>③PTA運営委員会において積極的な情報発信を行う。</p>	<p>【達成状況】 ・各対象者の肯定割合が指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、学校及び学年経営等について理解が得られるよう、丁寧な説明と情報提供に努め、保護者やPTA組織の協力を得ながら教育活動に取り組んでいく。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B2 児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上 <b>児童 71.8%保護者 63.9% 教職員 73.7% 地域 83.3%</b></p>	<p>①教職員の共通理解のもと、適切な言葉づかいをする時と場を設定し、定着のための指導を徹底する。</p> <p>②PTA活動や地域協議会等で機会を捉えて意見交換を実施し、学校と家庭・地域が連携・協力を図り指導する。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員、保護者、児童の肯定割合が指標を下回ったが、教職員、児童については昨年度よりも上昇している。</p> <p>【次年度の方針】 ・「～です」、「～ます」の話し方や返事の徹底指導を継続し、習慣化に努める。</p> <p>・礼儀やマナーに優れた児童や場面を賞賛し、意識の高揚を図る。</p>

<p>B3 児童は、清掃やみどりの日の活動に熱心に取り組んでいる。</p> <p>【数値目標】 ⇒児童・教職員肯定割合85%以上 <b>児童 94.2%教職員 100%</b></p>	<p>①縦割り班清掃やみどりの日の活動等を通して働く楽しさや喜びを味わわせる。</p> <p>②道徳や学級活動において、意欲の向上を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 ・教職員、児童ともに肯定割合が90%以上となり、指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、与えられた自分の役割に対して喜びや誇りをもち、働くことの意義を自覚して学校のため、みんなのために役立とうとする心情を育てていく。</p> <p>・縦割り班活動ははじめ集団で同じのことに取り組み、やり遂げる大切さを学ばせる。</p>
<p>B4 児童は、縦割り班の活動などで他の学年の児童と協力して活動している。</p> <p>【数値目標】 ⇒児童・教職員肯定割合80%以上 <b>児童 95.1%教職員 100%</b></p>	<p>①児童会活動等で縦割り班活動の充実を図る。</p> <p>②「なかよしタイム」の実施等、班の自主性を重んじ、異学年児童の交流がさらに深まるような活動や内容を工夫する。</p>	B	<p>【達成状況】 ・教職員・児童ともに90%以上となり、指標を大幅に上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童会活動の取組を継続し、新たな視点にたって計画立案の工夫改善を図る。</p> <p>・一層、児童の社会性を育み、自主性が伸びるよう、異学年交流を推進していく。</p>
<p>B5 児童は家庭学習に対してめあてや見通しをもって取り組み、主体的に学ぼうとする意欲が向上している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合80%以上 <b>児童 80.2%教職員 89.5%</b></p>	<p>①児童一人一人が主体的に問題解決的な学習に取り組めるよう工夫する。</p> <p>②学校長表彰により家庭学習の奨励を図るとともに、主体的な学習態度の育成を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 ・教職員、児童の肯定割合が指標を上回っており、なかでも教職員は昨年度に比べ10ポイント以上上昇した。</p> <p>【次年度の方針】 ・自主学習強化週間の活用を図るとともに家庭学習の具体的なやり方を掲示物で紹介して意識の向上を図る。また、各種便りで紹介して家庭への協力と啓発を図る。</p>

### 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<p>1. 学校運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師や地域の教育資源を活用した授業展開を工夫し、体験的な活動を取り入れながら、児童の興味関心を喚起してきた。引き続き、教職員の創意工夫を生かしながら特色ある教育活動を推進し、地域及び保護者の協力を得ながら「地域とともにある学校づくり」を図りたい。</li> <li>小規模校ならではの異年齢集団による活動や学校行事などをとおして、児童同士が学び合ったり助け合ったりする心と態度を醸成し、社会性を培ってきた。次年度も目指す児童像の育成に向けて適切な教育計画の策定を行い、心豊かな児童の育成を推進する。</li> <li>引き続き、教職員の専門性を生かした教育活動を展開するとともに、教職員が組織の一員として連携意識をもって職務が遂行できるよう管理職が調整に配慮する。また、ライフワークバランスを考慮した勤務意識向上に努め、効率かつ効果的な業務遂行が図れるよう、マネジメント力を発揮したい。</li> <li>各種便り、授業参観、オープンスクール等により、学校の様子や教育活動について丁寧な情報の発信・提供を心がけ、保護者や地域の方々にも一定の理解をいただいている。引き続き、様々な情報発信の方法を模索し、工夫しながら学校経営の理解を得たい。</li> <li>P T A や地域協議会、各種ボランティアの方々との協力のもと、充実した教育環境が実現できている。P T A 活動では、会員数が少ない中、各種学校行事への温かい援助がありがたい。なかでも、図書や学習に関するボランティアの方々との協力と支援は、教職員以外の大人から学ぶ貴重な時間であり、情操教育の一翼を担っていただいている。</li> </ul> <p>2. 教育活動の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の回答結果から、教職員は自らの使命を自覚し、熱心に教育活動を行っている。</li> </ul> <p>&lt;学習面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校課題「自ら考え、自ら学ぶ児童の育成 ～聞く力・話す力の育成を通して～」は、国語科を中心に2年間、研究を進めてきた。児童が目的意識や相手意識を明確にして取り組むことや話し合いのポイントを可視化するなど、具体的な手立てを</li> </ul>
---

講じることにより、児童相互が安心して対話することができる成果が得られた。しかし、相手の意見を受けて、より深く自ら考えたり、グループで意見を集約したりすることには課題が見えた。今後はこれまでに成果を基に、獲得した知識・技能や収集した情報を駆使して、思考力や判断力、表現力の育成を意図した研究、研修を進めていきたい。

- 主体的に学習に取り組む児童を育てる土台作りとして、地域学校園と連携したルールを徹底させるとともに、学習準備、チャイム着席、指名時の返事、授業中の姿勢など基本的な学習態度が身に付くよう、指導を継続していく。
  - ・ 定着しつつある家庭学習については、強化週間を設けて習慣化を目指した指導を続け、保護者と連携を図りながら基礎学力の向上を図りたい。さらに、具体的な学習方法についても随時参考例を示すなどして啓発したい。

＜児童指導面＞

- ・ 教育相談、いじめアンケート、Q-U検査等を定期的に行うことで、いじめや問題行動の未然防止や早期発見・早期対応に取り組んだ。事案によっては保護者と連携を図り、短期、中期、長期目標を設定して組織的な対応に努めてきた。今度も児童の言葉や行動の変化を敏感に受け止め、適切かつ迅速な対応をしていく。また、教職員が児童のよさを称賛し、認め合う機会を意図的に設定することにより、自己肯定感の向上にも努めていく。
- ・ スマートフォンや携帯並びに電子機器等のゲームによる課題やトラブルが顕在化しつつある。授業の中でも発達の段階に応じて情報モラルの指導を続け、保護者と連携しながら児童の健全育成に努めていきたい。
- ・ あいさつや言葉づかいについては、強化指導週間など期間を決めた集中的な指導や発達段階に応じた指導を継続する必要がある。模範的な態度については賞賛の機会を設け、意識向上を図りたい。

＜体力・健康面＞

- ・ 昨年度と同様に、異学年による交流給食を意図的に実施しながら準備や片付け、食事のマナー指導を行ってきた。他学年の行動や所作を見ることは学びの場ともなり、一定の成果があることから、引き続き、取り組みたい。また、栄養士等が嫌いなものでも一口は食べる指導を行うことにより、栄養のバランスの大切さを伝えているため、本校は残食が少ない傾向にある。今後も丁寧な指導を行い、安全でおいしい給食の提供と食育の推進に取り組むたい。

- 感染症対策については、地域学校園で情報交換し、校医の指導助言をいただきながら適切な対応をしていきたい

## 7 学校関係者評価

＜学校生活全般について＞

- ・ 「学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」の項目は、他の評価者に比べると児童のみが若干低くなっている。児童によっては悩みを抱えていることもあるかもしれないので、教職員がよく観察したり児童の思い理解したりして状況把握に努めることが大切である。また、保護者に協力を要請することがあれば、その都度伝えていく必要がある。

＜学習指導面について＞

- ・ 新たに加わった「宇都宮の良さ」や「持続可能な社会」等については、質問自体も抽象的でどのように捉えてよいのか難しさも感じる。授業をはじめ様々な指導場面で、児童の目線に合わせて言葉を噛み砕き、学習内容とどのように関連しているのか、具体的に想起できるよう工夫していく必要がある。

＜あいさつ・言葉づかいについて＞

- ・ 昨年度に比べて教職員及び児童の肯定的割合が上回っており、よい傾向にある。生活面での指導の成果を基盤にして、学習面へも行かせるよう指導してほしい。本課題については、地域学校園協議会でも強化年間目標として掲げ、継続して取り組むことになっているので、学校及び地域で連携して取り組みたい。この点については、地域の大人も児童へのあいさつや声かけが必要であると考えられる。
- ・ あいさつの指導については、引き続き、児童が活躍する場を設けながら取り組むことや言葉づかいについては親しき仲にも礼儀ありの姿勢で指導することが必要である。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

次年度の努力点は以下のとおりである。

- 児童指導面では継続して、授業と生活の「きまりやマナーを守ること」、「時と場に応じたあいさつや言葉づかいができること」とする。具体的には、本校独自の「上西小徹底したい『5つの当たり前』」を重点的に指導する際は、強化週間を設けて指導の重点化を図るなど、教職員と児童が意識的に取り組むようにする。また、あいさつの励行や正しい言葉づかいについては地域学校園の共通課題と捉え、一層に保護者と地域に協力を求めながら指導していく。

さらに、多様な人と関わることをとおして思いやりの心の醸成することや自分を見つめさせる、振り返えさせることを様々な教育活動に位置付けながら活動内容を工夫するとともに、児童の心に寄り添った指導を積み重ねることで引き続き豊かな心を育む教育の充実に努める。

- ・ 学習指導面では、研究主題を主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善とする。今年度までの国語科を中心に聞く力・話す力を育成の成果を生かし、様々な授業で自分の考えを深めたり、問題をよりよく解決したりする児童の育成を目指す。そのためには、一単位時間の授業技術と技能を確認し、めあての立て方、ノートの取り方、振り返りの仕方などに係る研修を積み重ね、児童の学びの質が高まるように努めていく。また、新たに導入される宇都宮学については、教科や総合的な学習の時間において発達の段階に応じた指導を工夫することや系統的かつ横断的な学習が展開できるように授業を再構成する必要がある。更に、これまで学習してきたことをESD（持続可能な開発のための教育）の視点から捉

え直し、各教科や学校行事等の指導の中で関連性を意識しながら教育活動を進めたい。

- ・ 保護者や地域との関わりについては、特色ある教育活動を推進するために、引き続いて学習支援ボランティア活動を充実させ、授業をはじめあらゆる場面で効果的な教育活動が図れるように努めたい。また、学校が取り組んでいる教育活動の状況や成果などについて学校だよりや学年通信等で積極的に情報を発信することを継続し、理解を求める必要がある。